

学校の夏季休業も終わり、いよいよ2学期のスタートとなりました。この夏休みにも学校運営協議会委員さんの研修会、地域が主催、もしくは支援して学校と連携した子ども達の学習会、教育ミニ集会の開催とCS及び地域学校協働活動に関連した取り組みが着実に進んでいる学校がありました。今回は、7月の研修会とともに、上記の様子をCSに携っているみなさんにお伝えすることで、自校の現状を省みながら、2学期以降に活動が活性化するための手立てを考えていただければと思います。

### 【学校運営協議委員研修会 7/30(水)・湖北地区公民館】

#### ＜代表者＋希望者による講師を囲んだ懇談会＞ (17校20名参加)

※学校運営協議会委員さんの発案で他校との情報交換や課題共有を目的に、今年度初めて試みた研修。時間が足りませんでしたが、以下の点について協議され、講師から助言・アドバイスをいただきました。



- 管理職以外の教員との対話・コミュニケーションについて
- 教育活動支援ボランティアの人材確保・発掘について
- CSの保護者や地域への周知、情報提供について

○運営協議会委員の人選について、委員の意識を高めるための方策 等々  
☆他にも先生方の負担増という疑問に対しても、「地域の力を借りて自分のやりたい授業が実現し、子どもの成長を目の当たりにする」ことがやりがいに繋がる。地域にとっても(支援ではなく)大人も学べる場という感覚をもつことが Win-Win の関係を作り持続可能になるという話がありました。

#### ＜学校運営協議会委員(学校関係者＋地域・保護者等)全体研修会＞

(学校関係者 59名中 40名参加・除学校関係者 108名中 16校 35名参加)

※2月の推進員研修会で大変に好評であったCSマイスター前川氏に再度講演を依頼しました。講演の中で他校の参加者と協議する時間を設けるなど充実した研修となりました。参加できなかった方が多かったのが残念です。



- 持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成(授業で育てる)には地域との連携・協働が必要不可欠
  - 校長の学校経営ビジョンを支える学校運営協議会。学校運営に参画することの意味とその留意点
  - 「地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域で学ぶ」総合的な学習。地域と協働で授業を創るためのポイントは地域が学校運営に主体的に関われるかどうか。そのための条件は校長のビジョンを先生と地域が十分に理解し共有していること(グランドデザインに地域との協働が明確、かつ具体的に記載されているか)
  - 幸せを感じる=関わった全ての人が成長する、満足できる学校創りを!
- ☆参加人数の偏りがあり、中学校区でのグループワークはできませんでしたが他校の様子を知り、お互いが学び合うための時間とすることができました。

## 【教育ミニ集会】

学校には年度当初に次のことをお知らせしています。「今年度から教育ミニ集会の開催について県への報告は不要となりました。ただ、報告の有無に関わらず、ここまで培ってきた地域との対話を途絶えさせることのないよう、開催しない場合には、それに代わる手立てを学校運営協議会で熟議して決定するよう努めてください」

結果、今年度は6中学校区中4中学校区で教育ミニ集会が計画され、夏季休業中に2中学校区で実施できました。

### <湖北中学校区教育ミニ集会・8/1(金)>

※湖北中学校区のミニ集会は、「自分も相手も大切にできるコミュニケーション実戦をめざして」というテーマで、講師の先生の指導のもと、それぞれの立場(学校と地域)を超えてお互いを知り受けとめ合うコミュニケーションを体験することを目的に実施されました。

☆湖北中学校区は昨年度に引き続いて地域の方々を多数お招きし、学校と地域が膝を交えて直接コミュニケーションをとる形で実施しており、地域と顔見知りとなり円滑な関係を築いていくためにとても有効でした。



#### ◇教頭先生から

- ・昨日、学校運営協議会委員研修会で地域との対話の大切さを学んだばかりで、今日、このテーマでミニ集会を開催できたことは、偶然とはいえたとしてもタイムリーで有意義な取り組みとなりました。



## 【夏休みの学習会】

### <3中4小で実施→地域+学生・生徒ボランティア多数参加>

※8月上旬の某新聞に「指導員は教員志望の高校生、小学生の補習・教育現場を体験」という見出して、高校生や大学生が夏休みの学習支援をしている記事が大きな写真入りで掲載されていましたが……。我孫子市でも写真のように、早い学校では10年近く前から同様の取り組みを進めています。

学校運営協議会で熟議し、主催を地区社協が担っている学校や推進員さんのご尽力で運営されている学校は、地域のみなさんが子ども達と触れ合いながら笑顔で話している様子が印象的でした。学習支援とともに、子ども達にとっての大居場所にもなっていたようです。

我孫子高校、我孫子東高校からも多くの生徒が参加。教職員志望、保育士志望の生徒は自分の将来を見据えながら、ボランティア部所属の生徒は子ども達との触れ合いを楽しみながら、活き活きと活動していました。

